

課題番号	GZ005
------	-------

**先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム)  
実施状況報告書(平成24年度)**

本様式の内容は一般に公表されます

研究課題名	アジア沖積平野立地型都市郊外における循環型社会を基調とした都市農村融合と戦略的土地利用計画
研究機関・部局・職名	和歌山大学・システム工学部・講師
氏名	原 祐二

1. 当該年度の研究目的

阪南・和歌山については、昨年度の成果をふまえ、地理・統計情報が集約されてきた堺市域を事例地区に定め、域内農地の生産状況、地域内部および地域内外の青果物フローおよび附随するエネルギーについて、定量解析を行う。同時に、有機性廃棄物のポテンシャル量の把握、および現場で進行している堆肥化事業に関する情報収集を進めていく。バンコクについては、ノンタブリ県における現地青果物生産・フロー調査を継続するとともに、昨年度秋期に生じた大洪水の農地利用に与えた影響も同時に調査し、非日常イベント時の青果物フローの頑健性を考察する。マニラについては、ケソン市の事例研究を論文としてとりまとめる。天津市については、中国側研究協力者と連携しつつ、農家情報の収集方法を絞っていく。

2. 研究の実施状況

以下研究マトリクスに進捗状況を要約する。

	堺市	ノンタブリ県	ケソン市	天津市
緑地・農地の空間分布	本年度追加調査(1)	本年度追加調査(3)	既達成	既達成
有機性資源の排出特性とフロー	本年度データ収集開始	既達成	既達成	次年度研究予定
都市郊外緑地・農地における青果生産量・フロー	本年度空間解析(2)	本年度追加調査(4)	本年度空間解析(5)	既達成

- (1)農地の作付け・所有状況と土地利用計画制度との関連を調査し、都市計画学会投稿論文他として掲載された。
- (2)青果物流通統計、農林業センサス、土地利用情報について、地理情報システムを用いて相互に関連づけ、国際誌 Sustainability Science に投稿、掲載された。
- (3)大洪水の農地被災状況と土地改変を現地測量および聞き取り調査により関連させ、都市計画学会論文として投稿された。
- (4)国際誌 Applied Geography に投稿予定、現在執筆中である。
- (5)国際誌 Applied Geography に投稿、アクセプトされた。

3. 研究発表等

<p>雑誌論文 計5件</p>	<p>(掲載済み一査読有り) 計3件                  土屋 一彬・原 祐二・宮川 智子(2012): 都市近郊における土地利用制度と農地の管理粗放化および自給的利用との関係性解明. 都市計画論文集 47, 223-228.  <a href="http://joi.jlc.jst.go.jp/DN/JST.JSTAGE/journalcpj/47.223">http://joi.jlc.jst.go.jp/DN/JST.JSTAGE/journalcpj/47.223</a>                  Kagioka, M., <u>Hara, Y.</u> and Tsuchiya, K. (2012): Study on the fire-protection characteristics of green spaces in central Sakai City. <i>Nakbara: Journal of Environmental Design and Planning</i> 8, 99-110.  <a href="http://www.aj.arch.chula.ac.th/en/index.php/CU/article/view/121">http://www.aj.arch.chula.ac.th/en/index.php/CU/article/view/121</a>                  Zhou, D., Matsuda, H., <u>Hara, Y.</u> and Takeuchi, K. (2012): Potential and observed food flows in a Chinese city: a case study of Tianjin. <i>Agriculture and Human Values</i> 29, 481-492.  <a href="http://dx.doi.org/10.1007/s10460-012-9374-x">http://dx.doi.org/10.1007/s10460-012-9374-x</a>                  (掲載済み一査読無し) 計0件                  なし                  (未掲載) 計2件  <u>Hara, Y.</u>, Murakami, A., Tsuchiya, K., Palijon, A.M. and Yokohari, M. (In Press): A quantitative assessment of vegetable farming on vacant lots in an urban fringe area in Metro Manila: Can it sustain long-term local vegetable demand? <i>Applied Geography</i>. <a href="http://dx.doi.org/10.1016/j.apgeog.2013.04.003">http://dx.doi.org/10.1016/j.apgeog.2013.04.003</a>  <u>Hara, Y.</u>, Tsuchiya, K., Matsuda, H., Yamamoto, Y. and Sampei, Y. (In Press): Quantitative assessment of the Japanese local production for local consumption movement: a case study for vegetables in the Osaka city region. <i>Sustainability Science</i>. <a href="http://dx.doi.org/10.1007/s11625-012-0198-9">http://dx.doi.org/10.1007/s11625-012-0198-9</a></p>
<p>会議発表 計5件</p>	<p>専門家向け 計4件                  横田 樹広・原 祐二・土屋 一彬(2012/9/8-11): タイ・バンコク近郊における2011年洪水時氾濫地域の緑被変動状況の把握. ELR2012 東京.  <u>Hara, Y.</u> and Tsuchiya, K. (2012/7/22-27): Scaling bioresource flow in the urban-rural fringe of Asian cities. Esri International User Conference, San Diego, USA.                  原 祐二(2012/6/9): 地形改変を伴う土地開発による環境負荷一和歌山大学付近を事例に一. 人文地理学会都市圏研究部会.                  田口 優・原 祐二・土屋 一彬(2012/4/7): 屋上菜園の管理運営と利用者意識に関する研究—神戸市中央区サンパル楽農菜園を事例に一. 農村計画学会 春期大会学術研究発表会 要旨集, 48-49.                  一般向け 計1件                  原 祐二(2012/6/20): 変容するアジアの大都市—都市化による景観変化は社会に何をもたらすか—. わだ い浪切サロン. <a href="http://www.wakayama-u.ac.jp/kishiwada/pickup/pickup_12_5.html">http://www.wakayama-u.ac.jp/kishiwada/pickup/pickup_12_5.html</a></p>
<p>図書 計0件</p>	
<p>産業財産権 出願・取得状況 計0件</p>	<p>(取得済み) 計0件  (出願中) 計0件</p>
<p>Webページ (URL)</p>	<p><a href="http://www.wakayama-u.ac.jp/~tcy/urs/">http://www.wakayama-u.ac.jp/~tcy/urs/</a></p>
<p>国民との科学・技術対話の実施状況</p>	<p>6月20日および3月14日に、本学のサテライト教室において、一般市民向け公開講座を担当し、本研究事業の成果を発表した。また、昨年度実施したGIS講習会については、来年度より本学大学院の正規演習科目として開講されることが決定した。このため、本年度は当該演習に用いる地理情報データの整理をさらに進めた。本研究事業の成果が、修士レベルの学生に対する演習課題の題材として、持続的に教育されることとなった。</p>

様式19 別紙1

新聞・一般雑 誌等掲載 計0件	
その他	

4. その他特記事項

なし

実施状況報告書(平成24年度) 助成金の執行状況

本様式の内容は一般に公表されず

1. 助成金の受領状況(累計) (単位:円)

	①交付決定額	②既受領額 (前年度迄の 累計)	③当該年度受 領額	④(=①-②- ③)未受領額	既返還額(前 年度迄の累 計)
直接経費	25,000,000	10,814,000	7,604,000	6,582,000	0
間接経費	7,500,000	3,244,200	2,281,200	1,974,600	0
合計	32,500,000	14,058,200	9,885,200	8,556,600	0

2. 当該年度の収支状況 (単位:円)

	①前年度未執 行額	②当該年度受 領額	③当該年度受 取利息等額 (未収利息を除 く)	④(=①+②+ ③)当該年度 合計収入	⑤当該年度執 行額	⑥(=④-⑤) 当該年度未執 行額	当該年度返還 額
直接経費	6,657	7,604,000	0	7,610,657	7,599,204	11,453	0
間接経費	0	2,281,200	0	2,281,200	2,281,200	0	0
合計	6,657	9,885,200	0	9,891,857	9,880,404	11,453	0

3. 当該年度の執行額内訳 (単位:円)

	金額	備考
物品費	479,645	カラー空中写真 等
旅費	2,597,115	研究資料採取、学会発表 等
謝金・人件費等	4,254,294	特任人件費 等
その他	268,150	日本都市計画学会 投稿料 等
直接経費計	7,599,204	
間接経費計	2,281,200	
合計	9,880,404	

4. 当該年度の主な購入物品(1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの)

物品名	仕様・型・性能 等	数量	単価 (単位:円)	金額 (単位:円)	納入 年月日	設置研究機関 名
				0		
				0		
				0		